

## わたしたちの物語

～子ども時代から今の暮らしまで～

佐藤 則之さん（八十二才）

&

大正大学社会福祉学科3年

石原怜さん

子どもの頃は、福岡でね、

アルバイトとして農園でスイカや梨とかのフルーツ狩りをして

アルバイト代は売り物にならないフルーツでね

そのフルーツを、大人の人からは「八百屋にでも売ったら」と言われたけど、

売りには行かず、自分で食べたり、ご近所さんにお裾分けしたりしたな

あとは、

畑の人や駅員の女の人と顔馴染みみたいになってね

畑を横切ったり、駅に通してもらったりと近道をよく通ったよ

それは都会では考えられないけど、「いってらっしゃい」と見送ってもらったんだよ

そして、野球もしたんだ

でも、六人しかいなくて、本当は九人でやるスポーツであるんだけど、

自分たちで、三角ベースをつくって、六人で楽しんだよ。

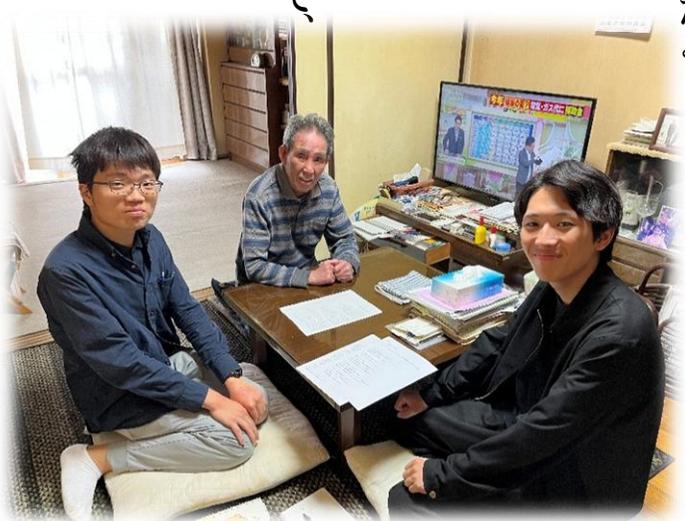
子どもの頃は楽しかったよ

二三歳になるとね、福岡から東京へ上京したんだ

その時にね、ことばの違いに驚いたよ

まず、「日月ボール」というのは「けん玉」のことにちげつで、

「ばっちゃん」というのは「めんこ」のことなんだよ



そして、商事会社に入って、時には中国と行き来する生活になったよ。好きなことは、売り上げを見ることだったよ。

中国と日本とを比べてね

中国ではボーナス出なくて、みんな貯金する。

そのお金で、日本に来て「爆買い」をしようと思うんだよ。

高島屋と仕事した時、

高島屋の店員は自販機のお金を回収する事になっているにも関わらず、回収しようとしなくて、言われたことをしないから、好きではなかったよ

今では妻が認知症になり施設に入って

妻や娘とはそれぞれ違うところで暮らしているが、

妻の認知症が一年で要介護度3から5と、進行の早さに驚き

私は、外歩くのが好きだから、自分はならないためにも

毎朝駅まで歩き、コンビニで新聞を買って、帰る

そして家で新聞を読み、テレビも見て、

毎日頭を動かすようにしているよ

最近、テレビで高齢者の運転事故よく見るよね

みんな「ブレーキとアクセルを踏み間違えた」というけど、

あれ違うと思うし、きつと電話でもしながら、運転したんだよ

本当に、信じられないよ！　そしてありえないよ！

私はあまり車の運転をしなかったから

六十五歳で返納したよ。

そう思いながら、健康に気をつけて、一人で暮らしているよ